

<福島県納税貯蓄組合連合会長賞>

## 私達の生活のささえ

福島市立清水中学校

3年 渡辺 百音

小学校1年の夏休み。母からもらった100円玉を握りしめ、初めての買い物をした。  
喜んでアイスレジに持って行くと

「消費税分が足りないね。」

と店員さんに言われた。当時は消費税の意味が分からず、「消費税って何。どうして余計にお金を払うの?」と思っていた。

それから数年がたち、あの東日本大震災が起きた。原発事故も重なり、福島市でも放射線の被害を防ぐために窓を開けられないという日々が続いた。夏が近づくにつれ、教室内はとても暑くて耐えられなかった。

そんなある日、教室に扇風機が付けられることになった。風は生暖かかったけれど、風が体に当たるたび今までとは比べものにならないほど心地よくうれしかった。気がつけば家の周りの斜めに傾いていた電柱や灯りの消えた信号機、地面から飛び出していたマンホールもいつの間にか直されていた。復興に使われたお金、それらは税金から支払われたものだった。私達の健康を考え、定期的実施される甲状腺検査も私達は料金を払っていない。だからここにも税金が使われている。その後、教室にクーラーも設置された。福島はニュースでも取り上げられるくらい夏の暑さがひどい地域。このクーラーも税金のおかげだ。大震災以降、どんどん生活が元に戻っていくを感じながら、税金というシステムに感謝を感じるようになった。

実際にアフリカや西アジアの国の中には税金がない国もあるらしい。私と同じくらいの年の子やもっと小さい子どもが学校に通えないでいると聞いた。病院の施設が乏しいため

予防接種が受けられない子どもがたくさんいること、多くの救える命が失われていることも聞いた。急に胸が苦しくなった。

税の授業を受けて、「日本に生まれてよかったな」と思った。税金は決して安いものではない。また、税金には、固定資産税や自動車税など多くの種類があり家や土地、自動車を持っているだけで税金がかかる。実際、親が給料の明細書を見ながら

「こんなに税金で引かれている。」

と言っている姿を見ている。負担は大きいらしい。損していると感じる人もいるだろう。でも私達の周りには、学校、教科書、道路や信号など税金で支えられているものがたくさんある。もしも税金がなかったら小学校から当たり前のように受けてきた授業も受けられないし、健康な生活だって送ることはできない。快適な生活は心の安心や落ち着きもうむ。だから税金は、私達日本人の心も豊かにしているのだと思った。

私も近い将来、納税者になり、親になる時が来ると思う。その時もし私の子どもが「消費税って何。なんで余計にお金を払うの？」と言ったら私はしっかり伝えよう。

「そのお金が私達を支えてくれているんだよ」と。